

充填工法 天井・界壁用断熱材

# 建築用ロクセラム マット・フェルト

F★★★★

JIS A 9521 建築用断熱材  
不燃材料:詳細は下記※

昭和45年12月28日建設省告示第1827号  
等で、かさ比重0.04以上が規定されている  
建物で使用できます。



フェルト



●マット ※不燃材料:NM-3616

品番	JIS認証種類 密度(kg/m <sup>3</sup> )	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	入り数 (枚/梱)	相当施工面積 (坪/梱)	熱伝導率 (W/m·K) 平均温度23°C	熱抵抗値 (m <sup>2</sup> ·K/W) 平均温度23°C	設計価格 (円/坪)
BH0410F	MA (40以上)	100	425	1360	8	約1.5	0.038	2.6	4,400
BH0410FW			470		7	約1.4			4,800
BH0455F		55	425	1360	16	約3.0		1.4	2,500
BH0455FW			470		15	約3.1			2,900

※ チューブ、マット付属フィルム共にアムマットと同じ仕様

●フェルト ※不燃材料:BD04010P(NM-8602 片面ポリ貼)、BF04050B(NM-8600 裸品)

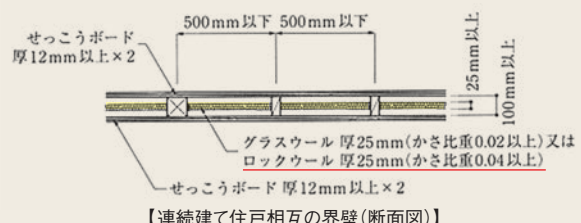
品番	JIS認証種類 密度(kg/m <sup>3</sup> )	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	入り数 (枚/梱)	施工面積 (坪/梱)	熱伝導率 (W/m·K) 平均温度23°C	熱抵抗値 (m <sup>2</sup> ·K/W) 平均温度23°C	設計価格 (円/梱)
BD04010P	MA (40以上)	100	910	5500	1	約1.5	0.038	2.6	11,200
BF04050B		50		11000		約3.0		1.3	10,700

ロクセラム マット・フェルトは、密度が決められている共同住宅等の界壁等に使えます。

構造の種類	基準・認定者	内容	断熱材仕様・他
省令準耐火構造	住宅金融支援機構 フラット35仕様書	住宅金融支援機構が定める基準 フラット35・フラット35S・ 認定低炭素住宅等で仕様異なります。	[床直下の天井] 厚さ:50mm以上、かさ比重:0.024以上 [長屋建て・共同住宅の界壁] 厚さ:50mm以上、かさ比重:0.040以上
	一般社団法人 日本木造住宅産業協会	住宅金融支援機構が定める基準に合格	日本木造住宅産業協会が定める仕様

住宅金融支援機構のフラット35仕様書ではロックウールの密度に関して規定されています。一般的に、ロックウールで密度に関する表記が出てくるのは、この仕様書と下記の告示です。

- 建設省告示1827号(界壁遮音)かさ比重0.04
- 建設省告示1358号及び1380号(準耐火構造)かさ比重0.024  
→通常のアムマットもご使用いただけます。



〈出典:住宅金融支援機構〉

# 防湿気密シート

JIS A 6930 B種相当住宅用  
プラスチック系防湿フィルム

防湿気密シートで建物全体を覆えば手軽に低コストで高気密化できます。室内側の水分を壁体内へ侵入させないため、断熱材の室内側に施工します。



品番	材質	厚さ×幅×長さ	梱包数 (本/梱)	梱包 仕様	設計価格 (円/箱)
BH8412JA	ポリ エチレン	0.1×1,200×50m	2	紙巻 梱包	13,000
BH8421JB		0.1×2,100×50m(半折)	1		11,000

# 気密テープ

施工しやすく、接合部を確実にシールするテープ。シートとシートの継ぎ目はもちろん、柱や配管まわりなども確実にシールする気密テープ。



品番	材質	厚さ×幅×長さ	梱包数 (巻/箱)	梱包 仕様	設計価格 (円/箱)
BH8450J	アクリル 系	0.2×50×20m	30	ダン ボール	31,000

## 建材トップランナー制度



対象商品には左記の  
マークを入れております。

トップランナー制度は、経済産業省 資源エネルギー庁が、製品の性能をさらに向上させるように目標値を設定し、その達成を求める制度です。1998年(平成10年)より家電や自動車等が対象となり、省エネルギー性の向上が図られ大きな成果を上げています。そして、2013年(平成25年)12月に建築材料にもトップランナー制度(建材トップランナー制度)が拡大され「住宅用断熱材」が加わりました。2014年(平成26年)11月には「ガラスとサッシ」が加わりました。

### 2022年の具体的な目標値は下記になります

ロックウールの熱伝導率は「グラスウール高付加価値品」と同等の断熱性能「0.038W/(m・K)」ですが、更に0.5%改善し、平成34年(2022年)に0.03781[W/(m・K)]を達成することを目指しています。

断熱材区分		トップランナー値 [(熱伝導率)W/(m・K)]	効率改善後の トップランナー値 [(熱伝導率)W/(m・K)]	現在 出荷割合	目標年度 出荷割合	目標基準値 [(熱伝導率)W/(m・K)]	性能 改善率
ロックウール断熱材		0.038	0.03781 (0.5%改善)	—	—	0.03781	0.5%
グラスウール断熱材	普及品	0.050	0.04975 (0.5%改善)	40.48%	31.41%	0.04156	6.04%
	高付加価値品	0.038	0.03781 (0.5%改善)	59.52%	68.59%		
押し出し法 ポリスチレンフォーム 保温材	普及品	0.040	0.03900 (2.5%改善)	48.12%	41.80%	0.03232	6.19%
	高付加価値品	0.028	0.02752 (1.7%改善)	51.88%	58.20%		

### 【以下の断熱材については、対象範囲から除外されました。】

- グラスウール断熱材のうち密度24[kg/m<sup>3</sup>]以上の建築材料(遮音・防火性能が求められる場合に用いられる断熱材であるため。)
- 硬質ウレタンフォーム(施工現場によって性能が変わる可能性があり、現段階では製造事業者等による出荷時点における材料の性能と施工後の断熱性能との関係が必ずしも明らかでないため。)
- ロックウール断熱材及びグラスウール断熱材のうち吹き込み品(施工現場によって性能が変わる可能性があり、現段階では製造事業者等による出荷時点における材料の性能と施工後の断熱性能との関係が必ずしも明らかでないため。)
- グラスウール断熱材を使用した真空断熱材(市場に占めるシェアが低いため。)
- セルロースファイバー、高発泡ポリエチレン、ビーズ法ポリスチレンフォーム及びフェノールフォーム(市場に占めるシェアが低いため。)